

会員の皆様、こんにちは。

ネットショッピングのニーズは高く、今や洋服さえもワンクリックで購入する時代です。多くの人が店舗に出向き、試着をして着心地やサイズ、似合っているのか…をじっくり考えていたのに時代は変わっていくものです。

今回のテーマは、『“ファッションテック”で生活の質向上へ～デジタルツールで製品・サービスの価値高める～』です。個々の体型や好みに応じて、AIがスタイリストとなって服をコーディネートしてくれる日も近く訪れるでしょう。是非ご一読ください。

石田まさひろ政策研究会

“ファッションテック”で生活の質向上へ ～デジタルツールで製品・サービスの価値高める～

消費者の価値観やライフスタイルは常に変化しており、生活雑貨や衣料品に対するニーズにも変化がみられる。そんな中、第四次産業革命におけるIoTなどのデジタルツールの発展により、これらを扱う業界にも新たなビジネスモデルの創出が期待されている。

■ モノ消費からコト消費へ

かつては単に“かわいい洋服が欲しい”“ブランド物のカバンを買いたい”と言った、モノそのものを購入・所有することに価値を見出す“モノ消費”が主流であった。しかし、近年は、断捨離やミニマリストと言ったキーワードに代表されるようにモノそのものの価値よりも、これまでにない体験をすることに対して価値を見出す“コト消費”への関心が高まっている。例えば、“RIZAPに高いお金を投じたからには、頑張っ



なりがちだが、モノを販売するだけではなく、コト消費に対応した新しいサービスの提供が求められているのだ。

■ 付加価値の高い商品やサービス

ファッション分野にデジタルツールを積極的に導入し、製品・サービスの高付加価値化を図る取り組みは、ファッションテックと総称され、IoT等のデジタルツールを活用することで、消費者の目に見える形で生活の質の向上をもたらす可能性が高い。



■ すでに進められる新たな試み

すでに、ファッションテックを用いた新たなサービスが動き始めている。

例えば、消費者個々の好みや体型などのデータに応じて、個別の受注と生産システムをIoT等に連携させ、大量生産と同様の効率性で、オーダーメイドの一点ものを生産・販売することができるかもしれない。また、消費者の生活や活動、気候等、服の選択に関する情報を分析し、個人のニーズや思考に応じた商品やコーディネート提案などの試みが始まっている。

また、電気を通す繊維の素材を用い、着るだけで、心拍数や心電図、呼吸数などの生体データを取得できたり、衣服の繊維の伸縮を利用して身体の動きや活動について測定できるスマートテキスタイルも進んでいる。衣服を通して得られた生体データは、高齢者、

建設作業員やドライバー等の見守りや、アスリートの体調管理や運動負荷量のモニタリングに応用されている。

将来的には衣服というモノの概念を根本的に変革し、これまでには到底不可能であった様々なサービスやソリューションを提供できる無限の可能性を秘めているのだ。



帝人 株式会社のHP より
心電計測ウェアラブル電極布の開発風景

著者：岩田池男